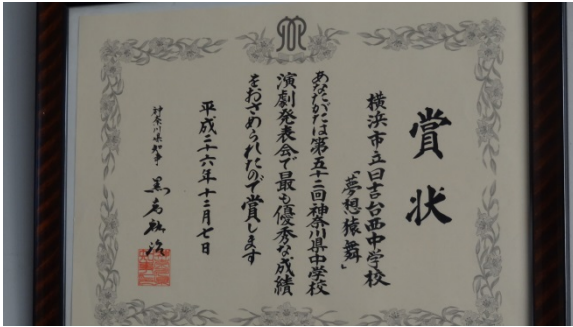


・・・県大会・関東大会の結果、今年の夏 全国大会出場が決まりました。・・・

演劇部は、神奈川県立青少年センターホールで、1時間余りの演技時間を見事に成し遂げ、1都6県から12校、約250名が参加して多彩な演目が披露されました。脚本「夢想猿舞(むそうえんぶ)」は、日吉台西中の創作脚本で、部員の何回もの話し合いや練習の中から練りに練ってつくられました。

地域の方々には、応援のスポンサーになっていただき、会場に模造紙大のポスターが並び、演劇部員の大きな励みとなったとのことでした。また、PTAの協力で、日吉駅の日吉中央通りに「がんばれ、日吉台西中」という横断幕を掲げ、在校生や卒業生にもよいアピールとなった中での金賞受賞です。



県大会最優秀賞の賞状



「夢想猿舞」の舞台風景

一人ひとりの力が結集

日吉台西中学校長 志村 誠一郎

演劇部の活躍は、県大会・関東大会を青少年センターで見て、一人ひとりの力が結集した結果であると思います。他校に比べ人数も多く、その中でも男子部員が多いということ。台本も一人だけでなく、みんなで協力して完成したこと。演じる人、わきで支える照明、音響、大道具・小道具づくり、そして、保護者の協力での衣装づくり、地域からの応援ポスター、などなど本当にすべての面で好条件が揃い、さらに顧問を中心に部員一人ひとりがもっている力を発揮し、全員が一つになれた結果であると思います。

夏には、全国中学校総合文化祭への出場が決まっています。3年生が卒業し、新1年生を迎え新たなメンバーで臨みますが、これまで培ってきた「全員で取り組む」ことで、すばらしい発表を期待しています。



演劇部顧問

田村麻由子教諭

「夢想猿舞」にはたくさんの人の想いが詰まっています。台本は卒業生の保木本君が中心になって創作しましたが、「創作」と一言では言えないほどの苦労と努力がありました。何度も何度も書き直しをし、シーンの追加、削除、変更が繰り返され、また演技や小道具も変わり・・・。演劇は総合芸術であり、それに答えはありません。この台詞はこれでいいのか、このシーンの演技はこうではないのではないかと何度も作品から問いかけられ、その問いかけに答えようと生徒とともに苦戦しました。寝ても覚めても一つのシーンが何度も頭をよぎり、永久に解答のない数式を説いている感覚でした。一つの作品を生み出すことの苦しさを思い知らされるとともに、それを分かち合い作品を仕上げていく過程は、私にとっても生徒にとっても大変貴重なものでした。大道具や衣装など志村校長先生をはじめ、保護者の方々にご協力いただき、たくさんの人の想いが大きな賞につながりました。感謝を胸に一回り大きくなった演劇部は次の舞台に向けて新たな挑戦をします。

応援、よろしくお願ひします。

日焼けするから野外の部活動は嫌。しかし、体は動かしたい。そう思っていた私が出会ったのが、この西中演劇部だった。



そんな中途半端な気持ちで入部したが、先輩たちと劇をつくり続けることで、私の中に演じることの楽しさや新しい自分が見つかる時の喜びが生まれていった。後輩ができ、その気持ちに変わりはなかったが、だんだんと責任感も感じ始めていた。

そんな中、部員や脚本に恵まれた私たちは、沢山の大会を勝ち進み、今までは校内ですら注目されていなかった西中演劇部だったが、いつのまにか神奈川県を代表する部となり、私はその部長になっていたのだ。これは、絶対力を合わせなければできなかつたと思う。普段ならまとまりの「ま」の字も皆無だが、劇に向き合えば協力そのものになる。今年は、40人近い人数なので昨年以上に衝突すると思うが、時間がかかっても協力を見出し、また上を目指していきたい。



「夢想猿舞」

大会の舞台風景



○ 演劇部員2年生・3年生から感想原稿を寄せていただきました。

演劇部に入ろうと思った理由とこれからの活動の抱負を含めてお願いしました。

【3年生】

- ・ どの部活に入ろうか考えていたとき、急に頭に浮かんだのが演劇部でした。それが入った理由です。この演劇部に対する想いを書かせていただこうと思います。私は、演劇があまり好きではありません。顔を見られるのが嫌なので、劇中もよく顔をかくすために下を向いたり、横を見ている時があります。副部長としてうまく活動できず、なぜ私を副部長にしたのか。と、逆ギレですが怒りを感じたこともありました。この部活が憂鬱になることもあります。でも、私はこの演劇部が好きです。いやなことでも楽しいことも全部が一生の宝物となるこの部活は、わたしにとって家族のような存在です。そんな部活の部員一人ひとりの気持ちを束ねて形にしてくださった先輩方のおかげですばらしい賞がいただけたのだと思います。もっともっといろいろな劇をやってみたく今は思っています。
- ・ わたしが演劇部に入ろうと思ったのは、自分の表情の種類を増やしたかったからと、先輩と後輩の壁が少なそうだったからです。演じることは好きでしたが、人に見られるのが得意ではなかったもので、舞台に立つことが怖くて仕方ありませんでした。しかし、いざ立ってみると人の目がさほど怖くありませんでした。むしろ、人に見られていることが楽しいとすら感じました。2年生になってから、楽しかっただけの演劇が辛いものになっていきました。後輩ができたものの、3年生がいなければ引っ張ることができなかつたり、自分たちのセリフを決めるのに何時間もかけたりしました。それだけに、県大会に行けたときは、嬉しかったです。さらに、県大会でも勝ち抜き関東大会で金賞をとったときは、夢ではないかと思いました。今、3年生になって、全国大会に向けて歩めることを誇りに思います。

私が演劇部に入ろうと思った理由は、小学校6年生のときに劇を披露して楽しかったからです。私は大会を勝ち進んでいくうちに、主役級ではない人たちの大事さを知りました。舞台に出ている人たちだけが輝いているわけではないこと。創作だった『夢想猿舞』は、全部が初めてだった。西遊記の世界観を出すためには、大道具・小道具・衣装などの力が必要である。そして、場面をつくりだす音響や照明。全部がなくてはならないもの。私は、自分の役が精いっぱい周りが見えていませんでした。考えると、音響の凄さと黒子の支えなどがこの『夢想猿舞』にはつまっているなと思います。高校生となった先輩方が残してくれた全国大会を、みんなが輝けるような劇にしたい。関東大会まで進んだ経験を生かして次の地区も頑張りたいです。



- ・ 私が、演劇部に入った理由は、先輩・後輩の仲の良さがうらやましいと思ったからです。入ってみるととても楽しくて、望んでいた部活動生活でした。でも、時には辛い日々も送ってきました。夏の大会などが近づくと、倒れる子が出たりして大変なことばかりでした。みんなピリピリしていて、まとまりがなかった時もありました。そんな時、いつもみんなをまとめてくれたのが、今高校1年生の先輩方でした。今思うと、とてもすごいことだと思います。先輩方のおかげでみんなのまとまりができました。『ゴールド金賞』というすばらしい賞もいただきました。私たちが3年生になった今、1クラス以上いる部員を自分たちでまとめ、すばらしい思い出を作り、高校生や大人になってからも楽しかった・最高だったと思える部活動を作り上げていきたいと思っています。
- ・ 私は、もともと演劇部に入ろうと思っていたわけではなく、仮入部について先輩のかっこいい演技に惹かれて演劇に興味をもって入りました。1年生や2年生の前期は、先輩に引っ張ってもらっていたので、すごく楽しい部活でした。自分たちでセリフを1から考え、話し合っ作っていった役はすごく思い入れがあります。けれど、3年生の先輩方が引退して私たちだけで15人の1年生を引っ張っていかなくてはならなくなった時、今までの先輩方はすごいなと感心してしまいました。1年生に聞かれてわからないところは部長に・・・とすごく部長には負担をかけてしまいました。しかし、何度も何度もちゃんと部活のみんなと向き合っ、団結力と絆を深めた結果が、大会での優勝に続いているのではないかと思います。私たちは、演技がみんな好きで、すごく仲が良くて元気です。その良さをばねにして、頑張っていきたいです。
- ・ 私が演劇部に入ろうと思ったのは、仮入部でみた先輩がとても輝いていて、私もこんな風になりたいと思ったからです。部員と協力して、今回の『夢想猿舞』に取り組んで思うことは、先輩の偉大さです。特に主役をしていた先輩は、脚本も書いて主役もこなして、本当に偉大な人です。私たちもはや先輩のようにみんなから慕われる先輩になりたいです。しかし、劇をつくっているのは主役の人たちだけではなく、脇役の人も同じです。おどりを演じていた先輩も、自分の役を一生懸命に演じていました。私も、どんな役でも一生懸命取り組みたいと思いました。

- 私が演劇部に入った理由は2つあって、1つ目はもともと舞台に立つことが好きだから入りました。2つ目は、先輩と後輩が仲が良く入りました。私が2年生の時に全国大会の出場が決まり全国大会に出るときには、自分は3年生であることを思い、少し不安になりました。なぜなら新1年生が入ってきて、どう引っ張っていけばいいのか、どうアドバイスしていけばいいのかと思いました。今年は、地区大会と全国大会があるので、気持ちをしっかりと切り替えて残り少ない時間を無駄にせず、3年生らしく頑張っていきたいと思います。



【2年生】

- 私が演劇部に入ろうと思った理由は、まず何か小さい舞台でもいいから劇をやってみたいなあ、という簡単な理由でした。しかし、入ってみると「舞台に立つ」というのは、とても大変な道のりがあってこそだということが分かりました。なぜなら、舞台に出るには会場の人にはっきり聞こえる声でしゃべらなくてはいけないので発声練習の時、おなかから声を出すこと。舞台での発表には体力も必要なので階段ダッシュをきちんとダッシュしながらやること。と、いうのを先生や先輩方から教わりました。また、演劇は部員全員が力を合わせなければ良い演技はできないということです。私は、『夢想猿舞』を行った時、音響を担当していました。そこで私は、裏方である音響や照明もかなり大事なんだとわかりました。なぜなら、音を入れることでその劇の雰囲気を表したりすることができるからです。これを、今年からは後輩に分かってもらえるように頑張っていきたいです。
- 僕は、小学校6年生の時に週末が休みで、他の部活よりも楽というだけの理由だけで入部しようと思っていました。実際クラブに入ってみると、みんなが協力していて新たにできることが増えました。その1つが、舞台に立つことの恥ずかしさを感じなくなったことです。小学校の時から、多くの人前で話すことが苦手でした。入部した当時は、先輩たちにまともに自己紹介ができないほどでした。1か月ほどたってから、会話ができるようになりました。その先輩の演技がとても輝いていて「自分でもこうになりたい。」と、思いました。自分の初めての大会でもこの演劇部のおかげで、緊張せずに役を演じることができました。県大会や関東大会に進出し、その演劇部の一員だと思うと、今年は先輩としていろいろな人たちの手本となれるように頑張りたいです。
- 幼なじみの友人がいました。その友人とはとても仲が良く、ほぼ毎日遊んでいました。なかでもその友人の兄さんともとても仲が良く、一番あこがれる先輩でもありました。その先輩は、どんな時でも堂々としていてテンションが高く周囲の人たちを笑顔にさせてくれる信頼できる先輩です。小学校6年生の時に、ぼくがどこの部活に入ろうか迷っているときに、その先輩が演劇を進めてくれました。それから、演劇部がどういう事をするのか、どういうところが良いのかなどを聞いているうちに入りたいという気持ちが出てきました。そして、先輩のような人になれるのかと思い、この演劇に入りました。今は、先輩後輩どちらもいて、特に後輩に慕われるような演劇部全体で頑張っていけるような思いやりのある部活にしていきたいです。

- 私は、当初卓球部に入ろうと思っていました。しかし、この日吉台西中学校には卓球部がなく、私はどの部に入ろうか完全に迷っていました。仮入部でこの演劇部を訪れたとき、「なんて楽しそうな部活なんだろう。」そう思いました。このことが、私が演劇部に入ろうとしたきっかけでした。

演劇部に入り、私は音響担当になりました。機械をいじるのは好きでしたし、何よりも裏方という仕事に興味がありました。実際に、BGMがあるのとないのでは、劇の雰囲気や印象も変わってくると思います。私は、音響担当という裏方の役に誇りをもっています。1人ではできない事がある事を知り仲間と1つのものを完成させる喜びや楽しさも、この演劇部で知ることができました。
- 演劇部に入ろうと思った理由は、1年生歓迎会で今の高校1年生が殺陣をやっていて、カッコいいと思い、やってみたいと思ったからです。関東大会で金賞をもらった事も含め、「夢想猿舞」で手下役をやらせてもらい、殺陣ができて良かったと思います。

全国大会には、卒業生はいないけれど、協力し合ってきたことや先輩方から教わったことを生かしながら迎えられたら良いと思っています。
- わたしには、高校3年になる兄がいます。その兄は、当時日吉台西中演劇部でした。今でも演劇を続けています。私は、そんな兄を見てきて演劇には人を引き付ける力があると思い、私も演劇部に入りました。

兄は、港北区民ミュージカルに参加していて、私も裏方を手伝ってもらっていました。

裏方志望で部活に入り、自分なりに成長できたので、今度は舞台にも立てて大道具・小道具もつくり、周りをしっかり動かせるような人になりたいと思います。1年生が入ってきたことで人数が増え、演技のほども出てきたので、他校を圧倒する演技を部員全員で創っていきたくと思っています。10年・20年経って演劇部に入っていたと胸をはって言えるように全力で演技に向き合っていこうと思います。
- 私は、はじめはバスケット部と演劇部で迷っていました。仮入部に出向き演劇部に入ることを決めました。理由で一番大きかったのは、部員が上下関係なく仲が良いことでした。体育会系の上下関係があまり好きではなかったので演劇部に入りました。勿論、演劇をやりたいと思っていました。

関東大会までは長い道のりでした。というよりも、関東大会までたどり着くと思っていなかったのです。1年間驚きの連続でした。大会前になってピリピリしだして、学年間に溝が生まれ始めた時は、不安がどしどし押し寄せてきました。でも、舞台に上がれば一心同体になり、史上最高の演技をすることができました。金賞を手にする事ができたのは、みんながいたからです。喧嘩もたくさんしたけどありがとうございました。



クラブ活動の様子

- まず、耳に聞こえてきたのは幕が上がる際の音でした。この音を聞くと、「ああ、ここに至ることができて良かった。」とも思いました。

自分の兄が演劇部に入っていることを思い出して、その時の様子を話してもらおうと、高校3年の兄は、楽しそうに語ってくれました。ここで、興味が湧いてきました。仮入部では、楽しそうな感じがとても良く伝わってきました。この出来事の数日後、演劇部希望の欄に丸をつけました。

最初は、自分でもどのように振る舞えば良いのか分かりませんでした。先輩やいろいろな人からアドバイスをいただき、舞台上での自分ができてきました。まだまだやるべきことはたくさんありますが、そのひとつひとつに意味を感じ取って、他人と協力して自分と演劇を創りあげることができて良かったとまた思えるように過ごしていきます。

- 演劇部に入ろうと思った理由はいくつかあります。その中で、一番私の心の中で大きいものは、小学生の頃に私が抱いていた目標です。私は、小学生のころはずっと内気で、あまりクラスに馴染めずにいました。私は、いつも「自分を変えたい。」とっていました。

中学生になって、演劇部に入れば自分を変えられるのでは・・・と思い入部しました。演劇部のお蔭で内気な自分から抜け出せたのだと思います。

部員と協力して演劇に取り組んで思うことは、たくさんあります。まずは、受賞できたということが私にとって夢のような事なのですが・・・。受賞できた理由は、ひとりひとりの練習の積み重ねがあったと思います。でも、一番は、部員たちの助け合いだと思います。みんなが決して楽ではないハードルを越えたからこそこの賞だと思います。これからも部員で高いハードルを越えていきたいです。

- 私が演劇部に入った理由は、小学校1年生から習っているバレエを生かしたいと思ったのと、仮入部の時、先輩方の演技に圧倒され、「自分も、先輩方のような演技ができるようになりたい。」と思ったからです。また、部活の中で先輩と後輩との差があまりなく、とてもにぎやかな良い雰囲気でした。しかし、当時中学1年だった私は、演技の事は何も知らずすべてが初めてだったので、戸惑ってしまうことも多々ありました。

西中演劇部の部員や先生、家族などさまざまな人たちの支え、応援があったからこそ成長したのだと感じています。演劇というのは、1人でできるものではなく、仲間と力を合わせてできるものです。だれも欠けてはいけません。だからこそ、人とのかかわりを大切に全国大会に向けて頑張っていきます。



- 私が演劇部に入ろうと考えたきっかけは、小学生の頃友達ちに、「西中の劇を見に行こう」と誘われたことです。実際に見た私は劇の世界に圧倒され、その世界に引きずり込まれてしまいました。そして、劇が終わった後に、自分もあの舞台に出てみたいと思ったのです。

中学校に進学し、仮入部ではとてもおもしろい先輩がいて、楽しい雰囲気になり入部を決めました。

大会前になると、とても疲れるし緊張もするけれど、みんなで協力し合い助け合いながら大会で最高の賞をもらえるように頑張ってきました。部員全員で協力してもらえた賞は、とても輝いているように思えました。これからも部員と協力して頑張っていきます。

- ・ 私が演劇部に入部しようと思った理由は2つあります。憧れの先輩と一緒に部活をしたいと思ったことと、もともと幼稚園の時から劇をすることが好きだったからです。

今年度の部員と協力して取り組みたいことは、昨年度の経験を生かして3年生と協力しながら最高の演劇をお客さんに見せること。今年も地区大会を勝ち抜き、最高の夏にしていきたいと思います。前回の「夢想猿舞」を完璧にコピーするのではなく、今年の演劇部らしい明るさと元気さを全力で出していきたいと思います。楽しく演じて、卒業した先輩の方々に恥をかかないように、自分たちらしく精一杯の演技をしていき、最高の夏にしていきたいです。



今年の演劇部のみなさん

- ・ 私は、2歳の頃からピアノを習っていたのですが、コンクールや発表会で人前に立って弾くとき、いつも舞い上がってしまうので何かの役になり切り、「自分の殻を破ってもっと成長したい」と思って演劇部に入りました。地区大会の時は、ピアノのコンクールと重なって出られなかったのですが、県大会から関東大会の時は、とても重要で責任重大な役を顧問の田村先生から伝えられ、毎日部活の時間に演劇の好きな先輩から、私でもわかるように一生懸命教えていただきました。また、私は協力し合い何かをするのは、少し苦手でしたが団結して、金賞というすばらしい賞を頂いた時は、何かを成し遂げるとはとても大変でとてつもなくエネルギーが必要だけどとても楽しい事だと思いました。
- ・ 私が仮入部に来た時の話です。部室前の廊下を歩いていると「凧」と書かれた仮面をかぶった演劇部の先輩が仁王立ちでいました。それだけでも、とても印象に残ったのですが、演劇部のメンバーたちは、皆個性的で、面白い人たちでした。何よりも演劇部に入ろうと思ったことは、混とんとしていて、おもしろそうだったし、自由な雰囲気だったので入部しました。けれど、まさか関東大会まで行って最優秀賞を受賞するとは思ってもみませんでした。3年生が卒業し1年生と共に全国大会へ挑むとなるとかなり大変だと改めて思いました。全く違う配役で、セリフも変えて演ずることなので、新たな台本を作るとなると去年よりも大変になるとは思いますが、私も、演劇部のお荷物にならないように頑張りたいと思います。
- ・ 僕は中学校に入るとき、部活に入るつもりはありませんでした。僕は、野球をやっていて両立できると思っていなかったからです。しかし、部活動紹介という場で、演劇部なら両立できることを知り、演劇部の発表を見て、おもしろそうだったので入部しました。演劇は、やってみるととても難しく感じました。でも、先輩とのしきりがあまりなく、そのおかげで教えてもらえることが多く、早く覚えることができました。演技をすることは苦手ですが、照明や音響・大道具という形で一緒になって劇づくりに参加できることが、演劇の魅力だと思います。僕は、自分の役に誇りをもって、楽しみながら、これからも活動したいと思います。